

はじめに

本学は、人間健康学部の学年進行などにより、教員スタッフの増加があり、いきおい論文、研究ノート、教育改善報告、講演録などの数も増えてきた。

そこで、前号（10号）は研究活動報告などの定例的報告類であるアニュアルレポートは分冊にし、使い易さ、持ち易さなど活用の便を念頭に編集したのであるが、一年目のこととて、必ずしも十分整理されたものとなったとは言えないという反省がなきにしもあらずである。

ところでおよそ大学の使命は、今さら言うまでもなく、「教育」と「研究」と「社会貢献」であるが、本学のような“地域立”大学の場合、大学全体の重点事項として推進すべきは、否応なしに教育と地域貢献ということになるであろう。

その意味では、特に教育改善のための研究が、さらに増加することを期待したいし、学内予算の配分方針もそれを加速させる方向で策定運用されるべきものとする。そういう意味で、始まったばかりということもあるが、教育改善に係る論文等が少ないことに留意しておきたい。

なお、紀要の体裁等については、前号でも付言したように、掲載内容から考えて“研究”紀要の枠を越えるようになったこと及び研究中心の時勢ではないこと等を考慮して、次の号あたりから、「松本大学研究紀要」と本「地域総合研究」との掲載区分を再整理するとともに、紀要の題名も掲載内容にふさわしいように再検討する必要があると感じている。

平成22年6月

松本大学学長

松本大学地域総合研究センター長

いお や とし お
菴 谷 利 夫